

国際移民の日に寄せて: 人身取引対策行動計画 策定から3年

# セミナー「日本における人身取引被害者への支援」 ～ケースワーカーの視点から～

On Providing Direct Assistance to Victims of Trafficking in Persons  
-the Caseworker's Perspective to Victims and Experience-

日時: 2007年12月11日(火)18:30~

会場: カナダ大使館 オスカーピーターソンシアター

主催: 国際移住機関(IOM)・カナダ大使館

協力: MTV ジャパン株式会社 MTV EXIT

## 司会(国際移住機関 橋本直子)挨拶:

只今から「日本における人身取引<sup>1</sup>被害者への支援 ~ケースワーカーの視点から~」を開催いたします。毎年12月10日は国際人権デーです。また、来る12月18日は国際移民の日でもあります。現在世界の移民の数は約2億人に上ると言われており、国際移民の日には特に世界中で人の移動や移民の人権について議論されます。

IOMでは今年の国際移民の日のテーマとして移民の人権、特に人身取引被害者保護の問題に焦点を当てています。また、ちょうど3年前の12月には日本で初の人身取引行動計画が策定されました。そこで本日日本における人身取引被害者の人権保護について考える機会を持つことは大変重要で、タイムリーなものと言えるでしょう。

本日のセミナーは2部構成となっており、第1部ではMTV EXIT キャンペーンのドキュメンタリーを上映いたします。これは、アジアにおける人身取引の実情を踏まえ、その問題に関する人々の意識啓発のためにUSAIDの協力によりMTVJapanが作成したものです。第2部では、日本における被害者に普段から直接触れ合っているケースワーカーの方々によるパネルディスカッションを行います。最後には質疑応答も予定しておりますので、活発な意見交換の場になることを期待しています。

## 開会の言葉

### カナダ大使館公使 ドナルド・ポビアツシュ:

本日はご多忙の中セミナーにご出席いただきありがとうございます。カナダは人身取引における深刻な状況を認識しております。従いまして日本における人身取引に関する意識を高めるため国際移住機関IOMとこのようなセミナーを共同で実施できることをうれしく思います。カナダ政府は国内・国際における人身取引の撲滅に力を入れており、さまざまな取り組みを行ってきました。また、MTVの皆様が人身取引に関する日本での関心を高めるためのビデオ「MTV EXIT」を制作された精神にお礼を述べたいと思います。さらに、犠牲者に対する援助についてケースワーカーの方々からより多くの話を伺えることを楽しみにしてい

---

<sup>1</sup> 本報告書での人身売買と人身取引の使い分けについて:日本で使用されている用語「人身取引」・「人身売買」はいずれも、「国際組織犯罪条約人身取引議定書」の第三条の定義に従うものですが、今回の本報告書では人身取引という用語で統一しています。

ます。

## スピーチ

MTVジャパン株式会社 コンテンツ&クリエイティブ事業本部本部長

Chee Kong Cheah:

現在MTVネットワークスは世界規模で反人身取引キャンペーンMTV EXITを展開しております。本日皆さんにはMTV制作のドキュメンタリー番組をご覧ください。この番組は人身取引の被害者・加害者・人身取引廃止のために戦う人の話と実情を m-flo(VERBAL)の進行のもとで紹介するものです。また、人身取引の告発だけでなく人身取引に関わっている人々、そしてDV(家庭内暴力)といった関連のある問題も広く取り上げています。このテーマはとても重要な問題であり、MTVはその事実を隠すことなく伝えたいです。このビデオは8言語で世界各国の三億八千万世帯で放送され、ウェブサイト([mtvjapan.com](http://mtvjapan.com))でもご覧いただけます。この番組を通して我々の視聴者である若年層に人身取引の実情と予防を伝えていければ嬉しいです。

米国大使館/米国国際開発庁(USAID)経済協力担当参事官

チャールズ・R・アーネンソン:

人身取引の問題は世界中に広がり続けています。このひどい問題を免れる国は一つもありません。私たちは戦い続けなければいけません。今晚のセミナーによって人身取引の問題をより深く理解し、皆さんがこの問題に対して取り組む一歩になればと思います。ぜひ今日ここで知ったことを皆さんの友達、同僚や家族に話してください。それが人身取引に取り組む大きな一歩となるのです。ありがとうございます。

ドキュメンタリー上映 (ドキュメンタリーの内容は報告書の最後に掲載しています)

## <パネルディスカッション>

司会: それでは、本パネルディスカッションのモデレーターを務められます国立女性教育会館研究国際室  
研究員、渡辺美穂様にマイクをお渡ししたいと思います。よろしくお願いいたします。

**渡辺美穂(モデレーター)**: ありがとうございます。(第一部で上映された MTV 作成のドキュメンタリーにつ  
いて)非常にインパクトのあるビデオを見れたと思います。私はアジアバージョンは初めて見させていた  
きました。8:20 分までビデオの中に出てきた人々の近い立場に立っていつも活動されている四名のソーシ  
ヤルワーカーの方々それぞれに、ソーシャルワーカーとしてどういった活動をしているのか、その活動の中  
でどういったことに気づいているのかを説明してもらいましょう。

Y.P: 民間団体で、タイ人の相談者にケースワークをしています。私だけ主に電話相談を行っています。相  
談は、2 名の時もありますが、多い時で一日に 10 人以上、年に 1000 人以上の相談を受けています。人身  
取引は、2005 年以降は、刑法の中に人身売買罪が新設されたため減ってきており、また今年の夏に入所  
者を受け入れることになりましたが、女性が声をあげることができない状況に追い込まれているというこ  
ろが分かってきています。インターネットでつながり、国際結婚という形で日本に来ます。日本人と結婚して  
田舎の農家へ送られて、働かされたり、老人介護のヘルパーとして働かされていることもあります。在留資  
格を得るために日本人と結婚します。男性は、ブローカーにお金を払います。被害者は、経済的、肉体的  
にも精神的にも追い詰められて麻薬依存、アルコール依存になってしまうことも多いです。格差・教育・日  
本に対する捉え方、文化の違いなどが理由に挙げられます。フィリピンの方々の場合、教会がありますが、  
タイのコミュニティーがないことなどから情報交換や心の治療が出来る場所がありません。人身取引され  
た人々がその後、どうなってしまうか、どういったことを考えているのか理解することが大切なことです。人  
身取引として売られてきた人たちはひどい扱いを受けています。それは、80 年代から続く、外国籍をもつ  
人々に対する悪習慣の結果でもあります。国と国の協力が必要です。例えば、単純労働に対するビザの  
基準も緩めるべきだと私は考えます。密入国は減るし、ブローカーも減ります。本人の意思を尊重して、守  
っていくことが一番大切です。人間として生まれた時から誰もが持っている権利なのです。

F.O:2005 年までに、フィリピンの被害者の人たちはエンターテイナー(興行ビザを取得して入国した人々)でした。2005 年がピークで、約 8 万人のフィリピン人がいました。エンターテイナーというと聞こえが良いですが、どういった仕事なのかというと、歌手やダンサーではなく、水商売いわゆるホステスという仕事をやって都会のクラブや田舎の Snackbar で働くのです。私の働くセンターで電話相談をしていると、助けてくださいと言ってくる。どういうことかということ、契約が違う、給料がもらえてない、生活の場がひどい、トイレがないところに置かれているなどの状況で働かされているのです。2005 年の 5 月に日本の制度が厳しくなり、エンターテイナーは減りました。エンターテイナーとして日本へ来る人は少なくなり、今は、約 1 万人のエンターテイナーが働いています。エンターテイナーとしての来日が難しいので、またブローカーやリクルーター、人身取引の斡旋のために新しいルート、国際結婚を使っています。トラフィッカーというリクルーターやブローカーは、スラムへ行って、女性たちを日本へ連れてこようとしています。早く日本へ連れてくるために、日本人と結婚したほうがいいと言い、その斡旋業者の人たちは、フィリピンで現地事務所を建て、そのスタッフがツアーを準備して、結婚するための婚姻証明書や届けなどを作成します。ひとりの日本人がやってきて 300 万円支払い、一番綺麗な女性を選んで結婚をするのです。この、Bride for sale というのが今一番の問題です。新しい人身取引の形態として、国際結婚、Mail Order Bride が今の問題です。フィリピンのデータによると、2005 年、6000 人が日本人と結婚していました。が、日本政府の対応が厳しくなると、そのデータが急に上がったんです。前年度から 26%上昇しました。2006 年のデータでは、8601 人のフィリピン人女性が日本人と結婚していました。この新しい現状で、ケースワーカーとして新しい問題に直面しています。2 年前は、人身取引に関する様々な問題で電話がきていましたが、今は、DV(家庭内暴力)という問題での連絡が多くなります。暴力的、嫁姑問題など、長期化した人身取引の結果の問題が出てきています。

MC: 国際移住機関(IOM)のケースワーカーの MC です。今日話すのは、IOM の帰国支援とケースワーカーとして感じたものについてです。日本の人身取引対策として IOM は被害者に対して帰国支援と社会復帰支援を行っており、現在 3 年目です。被害者は、安全の確認、個人の尊厳の尊重、精神ケア、シェルターの提供、法律の支援などを受けることができます。帰国し回復した後には経済支援が受けられ、小規模店などの経営や就学支援が受けられます。帰国後の経済支援策は個人のニーズによって変わってきます。

IOM の人身取引に対する活動のアプローチは3つの原則に基づいています。まず、人権の尊重、次にコミュニティアプローチ、そして政府と地域社会の能力向上です。IOM の帰国支援によって 125 名が帰国しました。54 名がフィリピンへ、48 名がインドネシア、13 名がタイ、6名が中国と台湾、3 名が韓国籍、1 名がコロンビア国籍でした。ケースワークの際に気をつけていることは、被害者本人と気がかりなことをじっくり話しあうことです。法律や個人的な感情、家族の問題などを聞いて出身国のサービスプロバイダーへ伝え、向こうがサポートできるように準備します。それと同時に、本人がいま抱える問題への支援も行います。また、もうひとつ私が気をつけていることとして、適切な支援をするため、面接時に個人的な問題を持ち込まないようにしています。自分が疲れていたりすると、インタビューに影響を及ぼす可能性があるからです。ケースワーカーとしての私の態度によって勇気を出したり、話すのをやめてしまったりしてしまいます。話し方や、聞く態度、メッセージの伝え方を気をつけています。話す勇気を出したり、出さなかったりするので、彼女たちの表情や態度から考えていることを読み取るのが大切です。インタビューの最初は、彼女たちの言葉で話してもらいます。皆さんは驚くかもしれませんが、彼女たちは人身取引のことを聞いたこともありません。多くが人身売買(人身取引)という言葉も知らない。被害のことは話したがります。彼女たちが話したいことから話してもらいます。そこから会話が始まります。今日のドキュメンタリーは、被害者の被害状況が具体的に良く出ています。関係機関の人たちは、彼女たちが極限状態にいるということを認識すべきです。誰でも人生において辛い経験があります。若い時の失恋や、試験に落ちたこと、仕事での出来事、いじめ、近隣者からの暴力や虐待、一時的に私たちのバランスが崩れる辛い出来事に精力が奪われます。人身取引の被害者の場合も同じです。性的にも、精神的にも暴力を受けているケースが多いです。やっとのことで逃げてきて、私たちに助けを求めてきた時に、彼女たちがこのようなひどい状況に置かれていたということを踏まえて支援をしないとイケません。彼女たちの潜在的な力を見る必要があります。そして社会復帰の際に、それを活かすことが大切です。大切なことは、彼女たちには日本に来る前に、家族や夢や目標が以前はあったはずで、弟や妹を学校に行かせたいなどの夢があったはずで、いつか自分で歩いていかなければならない、支援団体といつまでも一緒にいられるわけではありません。辛いことを乗り越えた後に、自分の中に小さな勇気が湧いてくると思いますが、私たちケースワーカーはその手伝いをしているので、主役は彼女たちなのです。

SF:ポラリスプロジェクトという国際NGOで働いています。私たちは日本とアメリカで活動しているNGOです。電話相談が主な支援で、シェルターを持っていないので、わりと自由に活動しています。被害者の身近にいる人たちに知らせるアウトリーチという活動を積極的に行っています。本当に何でも相談してくれればと思っています。殆どの被害者は自分が人身取引の被害に遭ったと気付いていないのですが、色々な話を聞いているうちに「もしかしてこれって」、と気付くことがあります。借金、ヤミ金、離婚、HIV、国際結婚として相談されて、私たちは関係機関につなげたりしています。そのなかで、人身取引の被害者に間違いのない場合があったときは、支援に入るのですが、私たち自身に支援の選択肢があまりない場合が多いです。たとえば、外国人の場合、今の辛い状況から抜け出すことができますよ、でもその後は帰国することになりますと説明するしかなくなってしまいます。すぐに帰国だと、さまざまな事情で日本行きを決めた彼女たちに何も残らないのもどかしさを感じています。被害者支援の具体的な方法がなく、帰国しか道がないのは残念です。次に進むステップがなかなかありません。現在お付き合いしている女性たちの中には、随分昔に人身取引にあった人たちもいますが、そういった人たちを見て、精神的なダメージはものすごく大きなものなんだと実感しています。洗脳のように、人身取引されている間の言葉の暴力によって、被害者は自分はどうでもいい人間だと思い込んでしまっている場合が多いです。そういったところに何年も居続けると、精神的なダメージがものすごいのです。こういったものは早くなくしていかななくてはならず、そのための予防も必要です。また、日本人女性も被害者になっています。性風俗で働いている人たちや援助交際は、日本人が多いですね。外国人と同じように脅迫や嘘からくる支配も多いです。私もそうでしたが、好きでやっているんでしょうといった概念をメディアを通して持っている人たちが多いので、お金が欲しいから自らやっていると言う一般の認識があります。売春をさせられていた少女や女性というニュースは、毎週実は何件も報道されています。最近では、ホストクラブで無理やりしつこく飲食をさせられ、その支払いのために風俗で働くよう強制したり、先日も新宿の歌舞伎町から奄美大島へ取引された14歳と15歳の少女たちもいました。彼女たちの環境は外国人の置かれている状況と同じような環境です。日本語も通じるのに何故と思うかもしれませんが、加害者は上手く彼女たちを孤立させているのです。本当に上手いなと思います。DVのような状況にしたり、親密な人にコントロールされているケースもあるし、加害者が別にいる場

合も、夫や彼氏と暴力的な関係にあったりします。警察や保護機関に関わる人たちも、好きでやっていると考えてしまいがちです。そういう考えを持って接すると被害者も感じ取ってしまうので、この人たちに今の状況を相談しても仕方ないと思ってしまうのです。支援者の法的援助や支援者の側も、一定の知識や関わり方や支援の仕方を持つことが大切だと思います。

**モデレーター:** 話しきれなかった活動内容について一言ずつメッセージを。

**P.Y:** シェルターでの支援について、人身取引の被害者は、以前より辛い思いを経験しているかもしれません。人身取引も DV の被害者も入所してきます。そのなかで特に大切にしていることは、当事者の立場に立つことです。被害者の支援の内容は、同行支援などがあります。検査や治療のために病院への同行、入管・警察・自治体への同行や通訳。精神的な回復ができるよう、アロマセラピー、ダンスセラピー、生け花で楽しんでもらいます。また、本人の希望があれば言葉の勉強や自国の料理などを作ることができます。外国籍の人たちのサポートにおいて言葉の壁が一番大きいので、安心できるような言語、母国語で相談できる、また通訳してくれる人が一番必要です。通訳を通じて話してもらわないと支援はできません。本人の意思、自分たちの準備、会話を聞きだすためには非常に時間がかかります。最初入所しても、具体的につかめないで、時間をかけて接しています。何を求めているのか理解することが難しいです。支援の内容は同じなのですが、私たちのシェルターでは、入所してから少しずつ話していくことが大切です。女性が何を言いたいのか理解するのが大変です。多くの人に伝えていくことが大切です。MTVのドキュメンタリーの内容を見て、私はちょっと涙してしまいました。でも、今、会場に来くれた人たちに感謝していますし、今後もっともっとたくさん人身取引の被害者がこういった状況にいるのかという情報を伝えていくことが大切だと思います。人権を守っていくことが平和に生きていく道につながると思います。

**F.O:** 私は、フィリピン人で、もっとフィリピン語か英語でいっぱい話したいのですが日本語なので難しいです。電話、ホットラインの相談をしているなかでの体験ですが・・・電話で、「コーヤ」というのは、フィリピンの言葉で「お兄さん」という意味ですが、「コーヤ助けて」と言われます。それを聴くたび、私は、ケースワーカー

であり、同時に「兄」なんだなと思います。何かをしなくてはいけないのだなと思います。次にプロセスがきちんと出来るか、IOM や警察・政府と作りたいですね。彼女たち、私、皆さんは皆同じ人間なのです。彼女も人間としての尊厳を持っています。たまたまそういう状況にいてだけで、貧しいところに生まれただけで人身取引の被害者になって困っています。力を合わせて、みなさんの地域の中で何かをやりたい。手を差し伸べて、何かをしてください。明日はよくなるでしょう。そういう希望を与えてください。

**MC:** 自分が信じているものが人を動かします。今日のビデオを見てすぐに行動するのではなく、じっくり考えて、自分は関係ないと思うか、自分のポジションを確認することをお願いします。ここにいる方たちは、何かの形で人身取引に関わっていると思いますが、この被害をなくするために色々一緒に考えたいです。

**S.F:** 待っているだけで被害者は来ないので、被害者に情報を渡す、その周りにいる人に知ってもらう、ここにいる人たちもやらなくてはいけないし、知ってもらえるようにやっていくことが重要だと思います。皆で考慮した意識を持ってやっていくことが大切です。ポラリスのHPにもある被害者を発見するためのチェックリストをどこか頭の片隅で覚えておくようにするなど…。アウトリーチも必要だと思っています。被害者を認定する際、専門家の人たちが、日本国内どこにいても一定の認識を持っていることが必要だと思います。そうでないと被害者のほうから助けを請うことをあきらめてしまいます。また、MTVしか出来ないような啓発の仕方を今日見させていただきました。とてもインパクトのあるメッセージが流れていました。こういったビデオを日本人のキャストで日本の番組等で流してもらいたいと思います。あのビデオを日本の問題として日本の風俗街で撮影して、日本人キャストで作ってもらえたらいいですね。

**モデレーター:** ありがとうございます。今日のケースワーカーの皆様の話もそうですが、ビデオでも人身取引の実態について、とてもわかりやすく伝えられていたと思います。このメッセージがテレビを通じて、多くの若い人たちに通じるのは非常にうれしいことだと思います。また、ケースワーカーの皆様が語られたように、被害にあう人はなかなか自分が被害にあっていることがわからず、どこに助けを求めていいかわからない、またそのまま本国に帰っているという実態があります。社会が一丸となって、被害に遭っている人た

ちを見つけてほしいというものが込められていた、ケースワーカーの皆様のメッセージでした。それではここから、参加者の皆様からのご質問を受けたいと思います。

#### 参加者からの質疑応答

Q1: 大学院で人の移動を学んでいる。被害者が日本で助けられて終わりではないと思うが、トラウマ等を抱えていると言うのは分かったのですが、実際具体的にどういった支援を行っているのかをお聞きたいと思います。

A1: MCさん回答 IOMでケースワーカーとして被害者の最終目的地までの支援を行っています。その際、最も気をつけないといけない点は、安全です。もし家族の元に危険で帰れないのであれば、シェルターも提供します。医療面での支援、法的な支援(訴えたいなど)人によって精神的な支援は人によって異なります。女性が落ち着いたら、医療サービスや生活支援カウンセリングなど 人それぞれ異なるので、3ヶ月の人もいれば、半年の人もいるし、それ以上の人たちもいます。経済的に困窮してだまされてしまったので、元に戻っても金銭的に援助がないと同じところに戻ってしまうので、そういった支援を行っています。

Q2: S.Fさんに、被害者かもしれない人たちに接する時に態度を気をつけるとありましたが、小さなパンフに連絡先が載っているが、警察に連絡するようにとあるが、日本の警察で人身取引の被害者に対して教育がされているのか取り組みがされているのか聞きたい。

A2: S.Fさん回答。知ってる限りで、2年前にあるシェルターの方が警察学校で人身取引のことを話すという研修を行ったと聞いていますが、そういったものが定期的にされているかどうかは分かりません。警察やその他の行政機関の対応は良くなったと思いますが、地域差も温度差もあると思います。

Q3:結婚という形であれば、家庭というものが維持されれば必ずしも人身取引とは限らないと思うのですが。

A3: FOさん回答。英語で答えます。確かに幸せな結婚もあると思いますが、今申し上げていたのは偽装結婚です。フィリピンのニュースで報道されていたのですが、日本のホームレスがフィリピンに行き、フィリ

ピン人女性と結婚させて、彼女たちを日本へ連れてきているという実態もあります。たしかに、幸せな結婚をされた国際結婚カップル、DVIに終わってしまったカップルもありますが、私の話したケースはすべて搾取がある、人身取引のケースです。

Q4: 被害者をケアする前に減少させるとか撲滅させるための具体的な対応をしているのか、それは警察に頼らざるをえないのか。

A4: モデレーターが回答。ケースワーカーからの視点で今回話していただいておりますが、政府としてこの問題をどう取り組むかについては、政府の人身取引対策行動計画に基づいて、内閣官房を元に、各省庁が予防から支援までを分担し、やっております。政府のHPでこういった対策を取っているのかというのを見ていただきたいと思います。

モデレーター:

国立女性教育会館(NWEC)の研究者として今回はモデレーターを務めさせていただきました。当会館では政府の行動計画が打ち出されてからこれまでの三年間、調査研究と、特に意識啓発に力を入れてやってまいりました。実際調査や啓発を行って感じていることがあります。婦人相談員などの支援者から一般の人たちやNGOの人たちに対してこの問題を話すとき、やはり問題自体を知らない人がとても多いな、と思うと同時に、しかしまた、具体的にお話をすると、「あれも人身取引だったのでは」などと、身近な体験から気づき始められる方も多いいいことです。知ることから、気づき、そして行動に結びついているのだな、と実感しています。今回のMTVのビデオはすばらしいものですし、これを通じて、「ひどいことがあるのだな」で終わらずに、多くの方が伝えていったり、自分の周りの問題として捉え、「自分だったら何ができるだろうか」とアクションを起こすきっかけになればと思います。

本日は皆さん、ありがとうございました。

**閉会のことば**

**国際移住機関(IOM)駐日代表 中山暁雄:**

もう2時間が経ってしまったのか、というくらい非常に有益なひと時が持てたと思います。特に、心に残る言葉が今のパネルディスカッションでたくさん聞けたのではないのでしょうか。ひとつ取り上げますと、人権の保護が平和と生きていく道につながる、という発言がありました。おそらくこれを世界人権宣言の起草者たちが聞いたら大変喜んだだろう、と思われる見事な国際人権デー・並びに国際移民の日にちなんだ私たちの中心的なメッセージを端的に表現していただけたと思います。本日のテーマであった移民の人権保護を考えていく際に忘れてはならないのは、移民というのは国境を超えて生きている人々であるということです。さまざまな動機・可能性を求めて国境を超えようという非常に強い衝動が働きます。それに対して、当然のことながら、国境を守ろうとする極めて強固な国家の意思がそこでせめぎ合うこととなります。そのはざまに起きている人権侵害、そしてそこに関与するさまざまな組織犯罪が莫大な利益を上げている、それが人身取引の被害であると思います。パネルディスカッションでも繰り返し強調されていたのが、多くの被害者は自分が被害に遭ったことに気付いていないということです。これはまさに人身取引の問題の特質と難しさを端的に示していると思います。今年は行動計画が生まれて3年目という節目に当たっています。節目にあたって、改めて自分が被害者ということに気付かず人権侵害を受け続けている人々を一人でも多く救済していく。そのためには皆さん一人一人がアンテナを働かせそのシグナルをキャッチし、支援のネットワークを知らせていかなければならない。これは政府機関だけではできないので、幅広い市民社会の関与が求められているように思います。

また、今日の主要テーマの一つとして需要の問題がありました。これは受け入れ社会の一員である私たち一人一人が考えていかなければならない問題です。MTVのドキュメンタリーは印象的でシンボリックな表現、そして生々しい映像を組み合わせておりましたが、一般的には良き市民なのかもしれない人々が少しずつ人身取引に加担している構造があります。ですから、啓発や教育の重要性、そしてこのような大変インパクトのあるツールというものが開発されてきていることをとても心強く思います。今日会場にいらした方々をはじめ、我々のような一般市民がそのようなメッセージの仲介者となりうると思います。ぜひ今日この会場を離れた時に、何か次の活動への手がかりを得ていただければと思います。

最後に、今回のセミナーを通じて浮き彫りになったのがケースワーカーの役割の重要性であったと思います。人身取引というのは議定書に定義が書かれてありますが、それを読んだことのある被害者はおそらく

極めて少数であると思います。そのため時間をかけ、母語を通じ、表情や感情の機微を読み取りながら、かつ冷静・客観的に被害者の置かれている状況を観察する、そのように非常に高度な専門的能力を持ったケースワーカー、特に自身が移民としてのバックグラウンドを持った人々が重要な鍵を握っていると思います。今後日本が移民と社会双方に利益をもたらすような移民と社会の共生を考えると、改めてケースワーカーの役割を考え直し、人材育成を進めていく時期に来ていると考えます。私たちは移民と向き合う国際機関としての立場から、専門的な職業としてのケースワーカーの育成を極めて重視しています。人身取引対策を超えた、より広範な人道的な移住の促進という観点から、改めて皆様に今後の活動へのご協力をお願いしたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

#### **第一部 MTV EXIT ドキュメンタリー上映前に流された反人身売買プロモーション SPOT**

**ビデオ1)** バービー人形を用いて、2人の男性に次々と、50ユーロで買われ、性交を強いられた後、トラフィッカーによって全ての稼ぎを没収される。逃げようとしたところ、人形に例えられた女性の首がころんと取れるまで、そして人形の家が崩壊するまで暴力を振るわれるというもの。その人形で遊んでいるのが、小さな少年。ビデオの終わりには、「Child's Play? (本当に、子どものお遊び?)」というメッセージ。

**ビデオ2)** 駅構内の自動販売機のような銀色の箱に入れられた赤い髪の女性。丈の短いワンピースを着ている。そこに次々と男性が来て、コインを入れると女性が誘うように動く。少年から中年の男性まで、ガラスの向こうにいる女性を夢中で眺めている。ある男性がお金をいれようと返金されてしまい、男性は怒って自販機を蹴る。そこへトラフィッカーらしき男が登場し、乱暴に貯まったコインを全て取り出す。その際、そこから出ようとした女性の首をつかむようにして無理やり彼女を中へ押し込む。その現場を見ていたコインを入れようとしていた男性は、うつむき加減にその場を去る。女性は、悲しそうに彼を目で追った。

**ビデオ3)** (ヨーロッパ国内の列車を舞台に) 若い男性が列車に乗り込んでくる。向かい席に座った長髪の女性と目が合う。女性は本を手にしている。男性は座ると同時にヘッドフォンを付けるが、女性は訴えかけるような眼差しで男性を見つめ、つま先で彼の足に触れたため、男性はへ

ッドフォンを外し、彼女に話しかけようとする。その際、女性は、口に指を当て、「シーツ」という動作をし、隣で眠っている中年の男性を示す。その若い男性は誤解し微笑む。女性はそうではないんだと言わんばかりに首を振り、本の裏表紙に書かれた「Help me」という文字を彼に見せる。男性がびっくりして女性に視線を移すと、一瞬で女性の姿はマネキン人形と化する。髪は後ろに引き抜かれ、天を見つめるマネキン人形になってしまった女性に驚いた男性はその場から一目散に逃げる。その逃げる車内はマネキン化した女性達が陳列している。「数十万人の女性が毎年ヨーロッパで取引されています。放っておかずに、搾取から彼女たちを救ってください。」というナレーションが最後に流れる。

**ビデオ4)**ある女性のもとに無精髭を生やした若い男性が訪ねてくる。薄暗い部屋は、彼女が買春客を受け入れる場所。男性の手を引き部屋に入れ、女性は男性を自ら誘い服を脱ぎ、性行為に及ぶ。しかし、彼女が彼に対して行っている一つ一つの動作が、自発的にではなく背後にいる人間にさせられているということが見えてくる。服を脱ぐ、彼の体に触れる女性の腕は、背後のもう一人の男性が操っている。最後に買春客がお金を払う際、彼女が差し出した手を無視して後ろの男が手を出し、金をむしりとる。男性客が去った後、彼女はベッドの端に膝を抱えて座り込み、傍らでトラフィックカーが腰掛けお金を数えている。このトラフィックカーの姿は客には見えないが、こういった風に女性たちは売春をさせられているということを映像化している。

**ビデオ5)**突然サッカーフィールドを裸で駆け抜ける金髪の女性。それを見た男性観客たちは手を叩き、口笛を鳴らし、大声で叫ぶ。警備員二人が女性の体を帽子やジャケットで隠し、抱えるように連れ去っていく。次に女性が何故、裸でフィールドを走り抜けたのかが分かる。女性は、二人の男たちに殴られ、服を無理やり脱がされ、フィールドに向かって走っていくように言われる。脅されて裸になり、男性たちを喜ばせるためにフィールドに送られる。「Still Cheering?(この現実を知ってもまだ歓声をあげられますか?)」の文字が出た後、「Thousands of women and girls will be trafficked into Germany during the World Cup and forced into prostitution(何千人もの女性や少女がドイツでのワールドカップの間に人身取引され、売春を強要されるだろう)」という文が出る。

**ビデオ6)**ウクライナ人女性が二人喫茶店のようなところで会話をしている。全体的に白で統一された非常にシンプルで綺麗な空間。黒髪の女性がブローカーらしく、金髪の若い女性に説明。ニコニコと微笑みながら、二人の会話が進んでいくが、「ビザを手配するフリをしてあなたの旅券をとりあげるのよ」と黒髪の女性が言い、金髪の女性が、「あなたは女性だし、信じるわ」と言って旅券を渡す。最後は、「あなたを売り飛ばすのを楽しみにしているわ」「私の人生がめちゃくちゃにされるのね」と言いながら握手を交わすシーンで終わる。いかにして女性たちが売春業者に売り飛ばされていくのかを冷笑的に描いている。

**ビデオ7)**アーティストやセレブが自慢の自宅を紹介してくれる、MTV で大人気のプログラム「MTV Cribs」をEXIT風アレンジしたSPOT。かわいらしい女性が自分の職業を「モデル」と称し、自宅をビデオカメラに向け紹介する。アパートの一室に東欧系の女性が数十人住んでおり、(実際には監禁されている)自分が寝ている部屋、そこに一緒に住んでいる他の女性たち、汚れたキッチン、積み上げられた洋服、客を取る部屋、そして女性を管理する大きな体の男もビデオで紹介される。彼女は「彼が私たちの世話をしている」と説明する。若い女性は明るくビデオカメラに向かって、いまの「楽しい暮らし」を話す。自分の部屋に連れてきたところで、別の扉から男がスーツ姿の買春客を連れて部屋に入ってくる。彼女はびっくりして、カメラを部屋の外に押し出し、もう出て行くように言う。彼女は、苦笑いしながら「『モデル』の仕事も大変なの」と言ってドアを閉める。

**ビデオ 8)**男性がカウチに座りテレビを見ながら小刻みに揺れ、汗を額から流す。男性が、自慰行為をしているのかと思わせるような設定。実際は、スポーツ観戦しながらトロフィーを磨いているだけ。メッセージは、「人身売買に加担せずに、家にいてくれてありがとうというもの。

### MTV のドキュメンタリー

人気アーティスト m-flo の VERBAL がナビゲーターを務めたドキュメンタリーにて、三人の人身取引被害者が紹介される。フィリピンからの女性は、叔母の知り合いの女性のいとこが持ちかけた話を信じて、売春をするために売られてしまった。インドネシア人女性は、収容施設のように

な場所に入れられあらゆる虐待を受けたあと、家政婦として売られた。そこで様々な暴行を加えられ、三度の自殺未遂を経験。ドキュメンタリー中では、運良く家族の元に帰れた被害者の一人として紹介された。ビルマ人の男性は、妻と共にタイのエビの養殖場に売られた。そこでは19時間の労働を強いられることもあり、逃亡を図った者には経営者が暴行を加えていた。経営者が警察に賄賂を渡していたため、警察の取締りはなかった。工場というより収容所といった感じで、フェンスや金網鉄線が引かれ、彼らは工場の外に出ることは禁じられていた。現在、この男性は救済され、妻と共に正規の工場で働いているとのこと。ドキュメンタリーでは、被害者だけでなく、搾取した側の人間そしてその強いられた労働を買った人間が登場。彼らが、人を売ること、買うこと、そして売られた人間を買うことに対し、自身の考えを話す。労働力や性の需要が世界のどこかにあるために、彼らは売られてしまった、とナビゲーター。自分たちの行動が、人身売買に関与している可能性がある、遊びに行く時や物を買うときに1度考えてみて欲しい、というナビゲーターのメッセージで締めくくられた。

聞き取り作成:NPO ポラリスプロジェクト(栗原 真由花、宮平 麻里子、尾崎 友里加)